

平成30年度

第8回岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 平成31年1月30日（水）午後3時～午後4時30分
- 2 場 所 岡山市役所本庁舎3階 第1会議室
- 3 出席委員 中塚委員長、貝原副委員長、小松委員、角田委員、高田委員、日笠委員、藤田委員
松井委員、光岡委員
- 4 出席職員 井上市民協働局次長
（女性が輝くまちづくり推進課）
逢澤参事、奥野参事監、祇園館長、岩井課長補佐、高村主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
（1）「第4次さんかくプラン」行政評価（平成30年度）について
（2）その他
- 7 配付資料
資料 1 「第4次さんかくプラン」行政評価（平成30年度）（案）
資料 2 「第4次さんかくプラン」行政評価（平成30年度）（案）専門委員会委員の意見による
修正項目
資料 3 「第4次さんかくプラン」行政評価事務局修正案

置き資料 1 「第4次さんかくプラン」行政評価事務局修正案（追加）
置き資料 2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例 新旧対照表
- 8 会議の状況
議題 1 「第4次さんかくプラン」行政評価（平成30年度）について
・配付資料、置き資料 1を基に事務局から説明

○ 主な意見
＜はじめに について＞
・冒頭、「岡山市では」は、「岡山市は」でよいのではないかと。
→「で」を削除
・2行目、「仕事と家庭生活の両立の推進」について地域活動等も入れてほしい。
→条例の表現とも合わせ、「仕事と家庭生活等の両立の推進」に変更
・2段落目3～4行目、「地域」「主体」が重複している。
→「地域団体やNPO、企業など多様な人々や組織による」に変更

＜「横ばい」という表現について＞
・前回の委員からの意見は、「横ばい」という表現を全部削除するというのではなく、「横ばい」
であることについて、それがいいのか悪いのかといった評価や、また、「横ばい」だが「まだ足
りないから上げてほしい」などといった今後の方向性などを評価に付け加えた方がよいという趣

旨ではなかったか。

- ・前回、一律に有意差がないものを「横ばい」にしてしまうのは違うのではないかと、という意見もあった。
- ・「横ばい」という表現をやめたことで、前年との推移や変化が全く出てこない。今年のことだけを書く方針ならばこれでよいのかもしれないが、グラフのそのままの割合を言っているだけになっている。
- ・来年も有意差がなかったら、ずっと同じ表現が続くのか。「〇割のままとどまっている」のような表現になるのか。「有意差はないものの上昇傾向にある」などのような表現ではどうか。
- ・今年度はこのままとし、来年度検討してはどうか。
- ・統計学には有意差がないのに、グラフでは上昇、下降しているのを見せて「横ばい」であると書かないのは、かえって隠していることになるのではないかと。
- ・P. 7の一覧表では空欄があまりにも多いし、空欄をどう読みとっていいのかわからない。空欄については調査していないようにも見える。

→今まで、有意差が認められない項目を全部「横ばい」と表現していたが、前回のご意見を受け、その中には正真正銘「横ばい」と言えるものも混在しているのではないかと考え再度確認した結果、全部どちらとも言えないものであった。

統計学には有意差がなくどちらとも言えないということ、評価の内容として「横ばい」と言いきってしまうのは、正確には意味が違うのではないかと考え、P. 7の一覧は空欄とし、評価には「横ばい」という文言を使わず、評価のニュアンスを丁寧に文章でフォローするよう工夫したものを今回、提示した。

○ 協議の結果

- ・評価の文言としては「横ばい」という表現を使わず、文章的に丁寧にフォローする原案の方向とし、P. 7の一覧については、空欄に横棒を入れ、注釈として横棒の意味を明記する。
- ・何年も同じ傾向が続くケースなどについては表現の仕方を検討するなど、来年度以降の課題とする。

<重点目標1について>

- ・P. 7 成果指標A H29との比較欄で、小学生は空欄で中学生が下降の矢印になっているが、両方下がっているように思える。小を書かずに中学のみと記入してはどうか。
- ・P. 12 目標① 3行目、「授業の内容を確認し」と追加したが、今年確認するように書いてあるので具体的に確認したものを来年反映してもらえるのなら、書いておいた方がよい。
→実施済の内容の詳細について確認することが難しいため、評価の内容「授業の内容を確認し」を「授業内容の充実を図るように働きかける」に修正

<重点目標4について>

- ・P. 27 指標Lについて、事業者における固定的な性別役割分担の解消度の指標として、来客の際に男女どちらがお茶を出すかを設定していること自体に疑問がある。この指標については次回のプランで検討したほうがよい。
- ・P. 28 指標L 2行目、「5割に達しておらず」という表現は、5割に達すればいいというようにもとれる。
→「約4割強で」に変更

<重点目標6について>

- ・P. 32 目標⑩ 2行目、「今後は、より積極的な」というと、これまで何もしなかったように感じる。

→「は」を削除し「今後、より積極的な」とする。

<重点目標7について>

- ・ P. 38 目標⑩ 1行目、大事な目標であり、依然として多いという根拠としても、551人という待機児童数が大切だと考えるので、評価にも丁寧に記述した方がよいのではないのか。
→具体的な人数を入れる表現に変更する。
- ・ P. 38 目標⑩ 2～3行目、「保育サービス」の文言が重複している。
→前半の「今後も保育サービスにおける多様な」の「保育サービスにおける」を削除する。
- ・ P. 38 指標R P. 35には参考として女性で介護している人の割合について記述しているが、P. 38の評価には何も書いていない。参考値だが男女の比較も大切なのでは。
→女性と比較して低いことを追加する。

<重点目標9について>

- ・ P. 42 指標U 現状値の説明で、単位町内会数をあげているが、町内会長数をあげ、括弧内の数字には、人を付けた方がよいのではないか。「すべての」を削除してはどうか。
→町内会の数と会長の人数が常に一致するかどうか、当課に確認したうえで適切な表現に変更する。
- ・ P. 43 指標U 割合は増加しているが、後段に実人数を入れるなど、まだまだ人数が少ないことを記述してはどうか。
→女性町内会長が少ないことがわかる表現に変更する。

議題 2 その他について

置き資料 2を基に事務局から説明

- ・ P. 10 第18条 「並びに」について、どこが並列かを法務の担当課に説明し再度確認してほしい。